

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：34519

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12440

研究課題名(和文) 認知症高齢者のEoLに関する複合的エビデンスに基づいたガイドラインプロジェクト

研究課題名(英文) Best evidence project on guideline development with multiple evidence end of life care in older people with dementia

研究代表者

今野 理恵 (Konno, Rie)

兵庫医科大学・看護学部・教授

研究者番号：10341372

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：認知症をもつ高齢者のACPに関するエビデンスをアンブレラレビュー手法で検証した。質的レビューエビデンスの統合手法は未開発のため、国内外の専門家や専門団体の意見を検討し、Thematic synthesis手法を応用した。4本の質的レビュー(38の一次研究)から、16の記述的テーマと5つの分析的テーマを得た：1) 高齢者の希望/好みの可視化、2) 関係者の良好な関係と協力、3) 代替意思決定に直面した混乱、4) ACPプロセスの開始、5) 医療者のACPへの準備とコミットメント。組織的・制度的な課題も含めた複雑で相互に関連する障壁を克服するためには、包括的で実行可能な戦略の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

EoLケア全体でなくACPに焦点を絞ったこと、質的エビデンスを対象としたアンブレラレビュー手法を採用したことで、実践へ示唆に富んだ厳密で質の高いエビデンス構築ができた。特に認知症をもつ高齢者とその家族にとってACPは今なお敬遠されるテーマであり、医療者や介護者との信頼関係がACPの前提となること、本人の意思をくみ取るうとする医療者の努力、家族の貢献や苦悩についてのエビデンスも明らかになった。また、本プロジェクトではThematic synthesis手法を取り入れアンブレラ統合を導き出すことができた。今後、増加する質的レビューの統合に方法論上の一つの方向性を示すことができたと思う。

研究成果の概要(英文)：Evidence on advance care planning (ACP) for older adults with dementia was examined using an umbrella review methodology. Since the method of qualitative-umbrella synthesis was undeveloped, we considered the opinions of national and international experts and professional associations and applied the Thematic Synthesis method. In total, 16 descriptive themes and 5 analytic themes were obtained from four qualitative reviews (38 primary studies): 1) making the wishes/preferences of persons with dementia visible; 2) constructive collaboration based on stakeholders having positive relationships; 3) emotional chaos in facing end-of-life substitute decision-making; 4) initiating the advanced care planning process; and 5) preparedness and commitment of healthcare providers to advanced care planning. Comprehensive and workable strategies are required to overcome complex and interrelated barriers involving not only healthcare professionals but also organizational and systemic challenges.

研究分野：老年看護学

キーワード：dementia advance care planning end of life umbrella review qualitative synthesis thematic synthesis

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

より良い EoL (エンドオブライフ) ケア提供は医療者の大きな関心事の一つだ。その中でも、終末期の治療やケアの意思決定に関する研究が近年すすんできていた。しかし、高齢者、とくに認知症をもつ高齢者がそれぞれの希望や意思を表明し尊重されたケアを受けられるようなケア環境の整備は、がん患者などの場合と比較して遅れをとっている状況があった。人口の高齢化に伴い認知症をもつ高齢者の数は今後さらなる増加が予測されていた。

2. 研究の目的

本プロジェクトは認知症をもつ高齢者への EoL ケアに関するガイドライン作成へ向けたエビデンス検証を目指した。その中で特に終末期ケアの意思決定、ACP (アドバンスケアプラン) についてのエビデンスを検証しガイドライン作成への示唆を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

認知症をもつ高齢者を対象とした ACP 支援については、すでに多くのレビュー論文が発表されてきており、過去 5 年で急激な増加があった。そのため、当初の予定だった一次研究の SR (システマティックレビュー) ではなく、SR 論文を統合するアンブレラレビューを実施した。質的メタ統合のさらなる統合にあたって、様々な国内外の研究者や専門団体と検討した結果、thematic synthesis の統合手法を質的アンブレラレビューに採用することとした。

4. 研究成果

研究成果の一つ目が、当該プロジェクトの初年次に日本における認知症をもつ高齢者と EoL ケアの現状についてベルギーの国際学会で発表をした。特にヨーロッパの研究者からの質問を多く得ることができた。特に日本の超高齢化社会の背景での高齢者ケアの実際についての情報が興味をひいていた。

Konno, R., Hino, N., Yamakawa, M. & Ban, M. The best evidence project for supporting end-of-life care in Japan Supporting older adults with advanced dementia and their families. 10th Biennial Colloquium 2018 Joanna Briggs Institute, Antwerp, Belgium.

研究成果の二つ目が、国内近隣大学とアデレード大学看護学科の教員との共同で、このプロジェクトの核であるエビデンス検証を目的としたアンブレラレビューのプロトコルを JBI Evidence Synthesis へ投稿し採択された。

当該プロトコルの作成にあたっては、研究代表者がアデレード大学へ赴き Faculty スタッフへプロジェクトのプレゼンテーションを行い、オーストラリアの研究者たち、とくにがん看護や高齢者ケア専門の研究者と意見交換をし、その結果を反映することができた。

このプロトコルはシステマティックレビューのデータベースである PROSPERO に登録することもできた。プロジェクト途中でのレビュー方法など種々の調整・変更のたびに PROSPERO の登録を修正や再登録をし実際を反映できた。

- Konno R, Inoue K, Schultz T, Wiechula R. Best evidence for advance care planning in older adults with dementia and their families: an umbrella review protocol. JBI Evidence Synthesis. 2020; 18(4):841-8.

研究成果の三つめは、現在、認知症をもつ高齢者に関する国際ジャーナルに投稿し査読結果待ちとなっている、アンブレラレビュー論文である。

近年のレビュー論文の動向を考慮し、当該プロジェクトでは特にこれまでに発表されてきた質的レビュー論文をアンブレラレビューの対象とした。質的レビューのアンブレラ手法はこれまで世界的にも例がほとんどなく未開の状態である。

本プロジェクトでは国内外の専門家やエビデンス統合の国際団体などからの助言をもとに、thematic synthesis 方法を採用することができた。厳密な SR 手法を用いる質的アンブレラレビューにおいて、thematic synthesis の活用ができたのは、本プロジェクトの前にはなかった。この点からも、レビュー方法論的に今後の方法論上の一つの示唆を提示できた。

- Konno, R, Inoue K, Matsuoka Y, Hashimoto K, Timothy Schultz. Best evidence for advance care planning in older adults with dementia and their families: an umbrella

review report. (英文ジャーナル投稿済み、査読中)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Konno Rie, Inoue Kumiyo, Schultz Tim, Wiechula Rick	4. 巻 Publish Ahead of Print
2. 論文標題 Best evidence for advance care planning in older adults with dementia and their families	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports	6. 最初と最後の頁 841-848
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11124/JBISRIR-D-19-00127	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Konno, R., Hino, N., Yamakawa, M. & Ban, M.
2. 発表標題 The best evidence project for supporting end-of-life care in Japan Supporting older adults with advanced dementia and their families
3. 学会等名 10th Biennial Colloquium 2018 Joanna Briggs Institute, Antwerp, Belgium（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

分析手法についてニュージーランド オタゴ大学教員より専門的助言を受けた。

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	井上 久美代 (Inoue Kumiyo) (70848291)	関西国際大学・保健医療学部・教授 (34526)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松下 由美子 (Mtsushita Yumiko) (50331806)	甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授 (34507)	
研究分担者	山川 みやえ (Yamakawa Miyae) (80403012)	大阪大学・医学系研究科・准教授 (14401)	
研究分担者	牧本 清子 (Makimoto Kiyoko) (80262559)	甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・客員研究員 (34507)	
研究分担者	伴 美由紀 (Ban Miyuki) (20780919)	兵庫大学・看護学部・助手 (34524)	
研究分担者	日野 徳子 (Hino Tomiko) (60775047)	関西国際大学・保健医療学部・講師 (34526)	
研究分担者	酒井 啓子 (Sakai Keiko) (70880839)	畿央大学・健康科学部・特任講師 (34605)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

オーストラリア	University of Adelaide			
---------	------------------------	--	--	--